

# 関谷委員からのご意見

---

## ●関谷委員 ご意見

- ✓ 何のための情報提供なのかという点で、「避難」なのか、ユニバーサルに避難以外の目的も含むのか議論を切り分けるべき。
- ✓ 防災気象情報全体としては、高度利用や事業者の利用を対象とするのはわかるが、警戒レベルは避難に関連して整理されたレベル化であり、警戒レベル相当情報について議論するならば、それは「避難」に限定して議論すべきである。
- ✓ 「簡潔で平易な情報」としてグルーピングされている情報であっても、現状ではスマートフォン、テレビ、防災行政無線等から情報を主に取得している住民は、警戒レベル1～5の数字や、警報であるかどうかのみ注目する場合が多い一方、報道等は災害種別（土砂災害のレベル4相当なのか、またはそれ以外の種別のレベル4相当なのか）も含めて理解し、呼びかけている。これは同じ平易な情報としても区別すべき。
- ✓ 住民の避難行動を支援するために、気象庁等が発表する「より詳細な情報」を基に報道機関がどう伝えるのか、という観点が求められるのであって、住民や報道機関に対して、それぞれどの程度の粒度で情報を出していくか、という議論となるのでは。
- ✓ 住民に伝える「簡潔で平易な情報」がどの程度の粒度が必要か、警戒レベルの数字のみ注目されている現状を踏まえ、より一層理解してもらうための方策も合わせて議論する必要があるのでは。